

・八田興一の功績

八田興一は台湾の歴代総統が墓前参拝に訪れるほど台湾の農業に貢献した日本人技師であり、八田が台湾の嘉南平野にもたらした功績は大きく分けると二つある。一つ目は1930年の完成当時では東洋一大きく、南北100キロメートル、東西71キロメートルの約15万ヘクタールを灌漑する烏山頭ダムを作ったことだ。烏山頭ダムをつくるのは現在のお金に換算して5000億円以上の規模の大工事であった。二つ目は農業改革を行ったことで、多くの水を必要とする稲作と水があまりいらぬサトウキビの生産と自然降雨のみで栽培可能な雑穀の生産をローテーションして行う三年輪作法を、地域によってずらして行うことを提案し、烏山頭ダムが灌漑を行える範囲が5万ヘクタールだったのを3倍の15万ヘクタールにすることに成功したことだ。この二つにより不毛の地であった嘉南平野は大穀倉地帯となった。

・烏山頭ダム建設中の困難とそれにまつわる八田のエピソード

烏山頭ダムの建設には山に直径9メートルのトンネルを掘って川の水を通す必要があったが、トンネルを90メートル掘り進んだ時に、石油が噴出し爆発事故が起きてしまい、死者は50余名にのぼった。八田はそれに屈することなく、信念を持って部下たちを励まし最も弱い部分の地盤を乗り切った。工事の全期間では134人もの方が犠牲になり、ダムの完成後には殉工碑がたてられたが、国籍や生前の地位役職や出身地に関係なく、亡くなった順に名が刻まれており、八田が公平な人物であったことがうかがわれる。

また関東大震災がおこった際には日本が政治、経済、社会面で大混乱となり、その影響で烏山頭ダム建設事業の補助費が大幅に削減され組合員の半数を人員整理しなければならなかった。このとき八田は有能なものから辞めてもらうという通常ではあり得ないことをした。その理由は有能なものはすぐに再就職先が見つかるからであり、仕事にありつけずに家族共々路頭に迷う者がないようにしようとしたからであった。八田は人員削減にあった者の再就職先を見つけるのに奔走し、烏山頭ダムの建設に携わっていたときより給料のよい職場を探し出しては世話をした。このことから八田はより多くの方がよりよい暮らしをできるように努め、とても面倒見のよい人物であったと思われる。

・農業開発に携わる場合に心がけるべきこと

農業開発に携わる場合に心がけるべきであるのは相手の立場に立って考えるのを忘れないことだと思う。

まず実際に農業を行って暮らしていくのは開発が行われる地域の人であるから、地元の人にとってよりよくなるにはどうすればいいかを一番に考えなければならぬ。その際に想像だけでは実際との乖離が大きくなってしまうため地域住民の気持ちを知るために、住民の意見に注意深く耳を傾けるべきである。また八田が三年輪作法を提案したように、開発によって恩恵を受けるだろう地域の周辺の人々の立場に立ち、恩恵を受ける人を増やすことはできないか考えることも重要で、うまくいけば開発を2倍にも3倍にも効果的なものにすることができる。そして八田が部下のその後も考えて再就職できやすそうなものから解雇し、新しい仕事を手配したのも、部下一人一人の立場に立って考えたからであり、それによって周りからの信頼を得て効率的に計画を進めることができたと思うし、大事故が起こったりして辛くても、ついていこうと思ってもらえたのだと思う。

他人の立場に立って考えることで、新しいことを思いついたり、周りの協力を得て困難なことを達成できる可能性が高まる。農業開発をより多くの人にとって充実したものにするために必要な心がけを八田與一の生涯から教えてもらった。

参考

TAIPEI n a v i 台湾観光旅行ガイド 台北ナビ

<http://www.taipeinavi.com/miru/103/>

文献に見る補償の精神[15]

<http://damnet.or.jp/cgi-bin/binranB/TPage.cgi?id=247>

八田與一 殉工碑

<http://nomusan.com/taiwan/corallake/2004.05.08/jyunkouhi.html>